平成２３年度（2011 年度）紀要１０６号

I

情報教育・ICT 活用研究

やってみよう！ICT を活用した授業

― もうここまで来ている情報教育―

情報教育・ICT 活用研究グループ
＜研究員＞

吹田第一小学校	教　諭	井上佐和子
吹田南小学校	教　諭	西田まなみ
千里第三小学校	教　諭	髙橋　美咲
江坂大池小学校	教　諭	横田　和也
山手小学校	教　諭	南原　忠昭
山田第三小学校	教　諭	熊野　厚博
第一中学校	教　諭	桂　　弘子
片山中学校	教　諭	中通　晴弘
南千里中学校	教　諭	梶本　剛史
豊津中学校	教　諭	山田　寿樹
山田東中学校	教　諭	西　慎一郎
高野台中学校	教　諭	得能　通伸
竹見台中学校	教　諭	中川　一彦
古江台中学校	教　諭	森脇　俊介

＜スーパーバイザー＞

和歌山大学　准教授　豊田　充崇
元公立中学校教頭　　山内　　祐

目　　次

１．はじめに・・　１

２．研究目的と概要・・・　１

３．経過・・　２

４．「情報モラル」についての授業研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３

（１）「調べ学習で学ぶ情報モラル」

（２）「社会科授業で学ぶ情報モラル」

５．おわりに・・・　１２

１．はじめに

「教育の情報化」とは、①情報教育～子どもたちの情報活用能力の育成～②教科指導におけるＩＣＴ活用～各教科の目標を達成するための効果的なＩＣＴ機器の活用～③校務の情報化～教員の事務負担軽減と子どもと向き合う時間の確保～の３つから構成され、これらを通して教育の質の向上を目指すものです。この「教育の情報化」を実現するため、平成２３年４月に、教育の情報化に関する総合的な推進方策である「教育の情報化ビジョン～２１世紀にふさわしい学びと学校の創造を目指して～」が出されました。「教育の情報化ビジョン」は、文部科学省の「学校教育の情報化に関する懇談会」における検討、「新たな情報通信技術戦略」（平成２２年５月１１日高度情報通信ネットワーク社会推進本部決定）、「新成長戦略」（平成２２年６月１８日閣議決定）等とともに、政府全体の動向を踏まえて策定されたものです。

「教育の情報化ビジョン」では、教育の情報化の流れを踏まえ、情報活用能力の育成や指導面でのコンピュータ等情報手段の適切な活用の必要性が明確に規定されました。また、児童・生徒の間にも携帯電話やパソコン等を通じたインターネット利用が急速に普及し、インターネット上での誹謗中傷やいじめ、犯罪や違法・有害情報等の問題が発生している社会的背景を受け、新しい学習指導要領では、配慮事項として「情報モラル教育」を各教科・領域の指導計画に組み込むよう示されています。

吹田市においても、平成２１年度整備された校内ＬＡＮや多くのＩＣＴ関連機器が各校に納入され、学校におけるＩＣＴ環境は大幅に改善されました。昨年度までに ICＴを活用した授業について具体的な実践を積み重ねてきたところですが、「情報モラル教育」に踏み込んだ授業実践は充分に研究されていませんでした。

そこで、本研究グループでは吹田市における教育の情報化の現状を鑑み、これまでの研究内容をさらに進化させることを基本に、以下の通りテーマを設定しました。

『やってみよう！　ICT を活用した授業』
～もうここまで来ている情報教育～

（１）情報モラルの指導
（２）Ｗｅｂ会議システムの活用
（３）ＩＣＴ機器を活用した授業づくり

※ＩＣＴ：Information and Communication Technology の略語。コンピュータやインターネット等の情報コミュニケーション技術のこと。

２．研究目的と概要

今年度の研究活動としては（１）情報モラルの指導（２）Ｗｅｂ会議システムの活用（３）ＩＣＴ機器を活用した授業づくり、と目標設定しました。昨年度は新しく導入されたＩＣＴ環境を授業において効果的に使い、児童・生徒にとってわかりやすい授業となるよう、様々な提案を公開・研究授業で実践してきました。そこで今年度は、ICＴを活用した授業を意識しなが

らも、**（１）情報モラルの指導** を第一の研究目的とし、情報モラルについての提案授業に取り組むことにしました。特に、道徳や特別活動等の領域で特別に時間を設定して行う情報モラル授業ではなく、**教科授業の中で必要性に応じて情報モラルについての指導を組み込んでいく提案授業**を研究していくことにしました。

具体的には、研究員を中心に授業展開についての検討会を行い、指導案の検討や事前授業の参観、授業後の研究協議を中心に研究活動を行いました。さらに、スーパーバイザーの和歌山大学　豊田　充崇　准教授の指導をいただきながら、情報モラルの指導について研究を深めていくことにしました。

３．経過

※全体会議

（１）平成２３年　５月１６日（月）研究テーマと活動及びＳＶについて
（２）平成２３年　６月２４日（金）研究テーマと研究大会の発表内容について
（３）平成２３年　７月２８日（木）教育研究大会に向けて発表内容について
（４）平成２３年　８月　３日（水）教育研究大会の発表内容の討議
（５）平成２３年　８月１８日（木）教育研究大会の内容討議と読み合わせ
（６）平成２３年　９月２２日（木）教育研究大会総括と研究授業について
（７）平成２３年１０月２０日（木）研究授業の内容検討
　　豊田先生ＳＶミニ講演　「コミュニケーションツールとしての ICT 活用と学力向上」
（８）平成２３年１１月１７日（木）研究授業の内容検討
（９）平成２３年１２月　６日（火）研究授業　山田東中学校　教諭　西慎一郎
　　豊田先生ＳＶミニ講演　「情報モラルについて」
(10) 平成２３年１２月２６日（月）研究授業の内容検討
(11) 平成２４年　１月　６日（金）研究授業の内容検討
(12) 平成２４年　１月３０日（月）研究授業　山田第三小学校　教諭　熊野厚博
　　豊田先生ＳＶミニ講演　「メディアリテラシーについて」
(13) 平成２４年　２月１７日（金）紀要１０６号について
(14) 平成２４年　２月２８日（火）紀要１０６号について
(15) 平成２４年　３月１３日（火）研究紀要１０６号作成
　　本年度の反省

※ＳＶ：スーパーバイザー（Super Visor）

※研究・公開授業及び事前授業検討会議

（１）平成２３年１０月１４日（金）山田東中学校西教諭研究授業打合せ
（２）平成２３年１１月　４日（木）山田東中学校西教諭研究授業打合せ
（３）平成２３年１１月２４日（木）山田東中学校西教諭研究授業指導案打合せ
（４）平成２３年１１月２８日（月）山田東中学校西教諭研究授業事前授業及び検討会議
（５）平成２３年１２月　５日（月）山田東中学校西教諭研究授業事前授業及び検討会議
（６）平成２４年　１月２６日（木）山田第三小学校熊野教諭研究授業事前授業及び検討会議

４．「情報モラル」についての授業研究

今年度取り組んだ情報モラルの研究授業について、中学校と小学校で取り組んだ教科の授業の中で情報モラル教育を扱った研究事例を紹介します。

（１）「調べ学習で学ぶ情報モラル」

中学校「社会」の授業を通して、普通教室におけるＩＣＴ機器を活用し、総合的な学習や社会科等でよく取り組む調べ学習で必要な「情報モラル教育」について考えました。

① 単元名 【『環太平洋パートナーシップ（ＴＰＰ）協定』について調べよう】

※ 以下ＴＰＰと記載

②資料　参照 Ｗｅｂサイト

賛成：「首相官邸」http://www.kantei.go.jp/

「日本経済団体連合会」http://www.keidanren.or.jp/indexj.html

「経済産業省」http://www.meti.go.jp/

反対：「JA 全中(全国農業協同組合中央会)」http://www.zenchu-ja.or.jp/

「日本農業新聞」http://www.agrinews.co.jp/

「農林水産省」http://www.maff.go.jp/

③単元目標（◆は社会科の目標 ■は情報モラルの目標）

◆情報社会の進展に伴う問題を知り、メディアリテラシーを身につけ、社会的なルールやマナーを尊重して情報発信できる知識や技能を習得する。

■情報を入手するときに、適正な手続きによる収集や、情報の信頼性を見抜く能力を養う。

■著作権等の知的財産権を尊重することができる。

④教材観

インターネット上にあるＷｅｂサイトから、生徒たちが自分の必要な情報を集め、まとめていく作業になるので、「情報を取捨選択する力」や、様々な情報の中から「自分の考えとして内容をまとめていく力」を身につけることができると考える。次に、生徒が制作したものを発表・他者評価することで、他者の意見や、まとめ方を相互に学びとることができると考えました。

また、この調べ学習を通して、インターネット上のＷｅｂサイトやマスメディアの発信する情報が必ずしも正しいものばかりではないということに気づくことができます。情報を吟味し、「情報に対しては比較検討が必要」であり、情報を無批判的に受け入れるのではなく、「何が真実かを判断できる視点」を養っておくことが大切だということに気づかせることができると考えました。

⑤指導観 （◆は社会科の視点 ■は情報モラルの視点）

○現代の社会的事象に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察させるために「パソコンによる調べ学習」をする方法で取り組む。

◆単元の導入では、生徒自身の興味・関心を高めるために「ＴＰＰ賛成派」「ＴＰＰ反対派」のＷｅｂサイトを紹介する。

◆生徒たちが主体的に学習し、情報を比較検討できるように、情報収集先のＷｅｂサイトを幾つか紹介する。

○事実を正確に捉えて公正に判断するとともに、適切に表現する能力と態度を育てるために、制作したものを「自ら発表する」方法で取り組む。

◆本時では、生徒同士が学習したことを共有し、他者と自分を比較検討するためにグループ学習を基本とする。「ミニ発表」等を行い、他者と意見交流する中で問題を発見する力を養う。

■著作権者の権利を尊重することを学ぶために、「ワークシート」を活用し、他者の意見を聞き、考察させる。

○情報は、比較検討し、吟味しなければならないことを学ぶために、前時の時間を活かして、『ＴＰＰ』について自分の発表内容を再検証し、まとめ直しを行う。

■自ら制作したものと、他者の発表を踏まえ、再び「調べ学習」を行い、情報を無批判的に受け入れない視点を持って取り組む。

⑥指導計画（全３時間）

時間	ねらい・学習内容	指導上の留意点	評価規準（方法）
1	○『ＴＰＰ』について「調べ学習」を行う。	○『ＴＰＰ』に関する課題を紹介し、情報入手先を提示する。	○『ＴＰＰ』について、関心を持って調べている。（観察） ○『ＴＰＰ』について、諸資料を活用し、まとめている。（制作物）
2	○『ＴＰＰ』について「発表」を行う。 ○調べ学習でまとめた内容に関しての「著作権」について班で話し合う。	○『ＴＰＰ』に関してまとめた内容の違いについて、比較検討させ、考察させる。 ○まとめた内容の「著作権」を考察させる。	○『ＴＰＰ』について、まとめた内容と他者の発表を見て、自分の制作物と比較し、「まとめ方の違い」や「まとめた内容の違い」や「情報入手先の違い」を考察し、班で話し合っている。（観察） ○「著作権者の尊重」を理解している。（問答）
3	○『ＴＰＰ』についてまとめ直しを行う。 ○情報の収集・発信について考える。	○前時の考察を踏まえ、自分の考えをまとめさせる。 ○情報を無批判的に受け入れたり、考察なしに発信したりすることに注意させる。	○他者の意見を吸収し、自分の考えを再構築している。（観察） ○「情報モラル」について理解している。（レポート）

⑦本時の展開

	学習活動	教師の指導活動及び、指導上の留意点
導入	ミニ発表を行う ・ ミニ発表をする。 ・ 発表者以外の生徒は他者評価を行う。	・ 学習に向かう態度を取らせる。 ・ 発表が受け入れられる環境を設ける。
展開(一)	全体発表を行う ・ 『ＴＰＰ』賛成・反対に対して、自らと逆側の作品への質問を考える。 ・ 班で意見を共有する。	・ 自分の意見や考えと異なる意見に対して、疑問を持たせるようにする。 ・ 疑問を一人一人考察させ、班で共有させる。 ・ 質問に対しては、逆側の人みんなで答えてあげるよう促す。
展開(二)	**『ＴＰＰ』に関するあなたの意見の根拠は何か** ・ 自分で考える。 ・ 班で意見を共有する。 **調べ学習をするときに気をつけなければならないことは何か** ・ 自分で考える。 ・ 班で意見を共有する。	・ 本時までは『ＴＰＰ』に対してほとんど知らなかったことに気づかせる。 【評価】 ホームページ制作者の立場や考え方の違いで、情報は変化することに気づく。 ・ 情報を吟味する大切さに気づかせる。 【評価】 メディアリテラシーを身につけ、情報は比較・検討する必要があることを理解する。
展開(三)	クイズに答える ・ 各班で相談し答える。	・ 前時の時間を振り返りながら、著作権について考える。
まとめ	レポートで振り返る ・ レポートに記入する。	・ 適正な手続きによる情報収集や、メディアリテラシーの必要性を確認する。 ・ 静かな環境を整える。

⑧成果と課題について

単元目標（◆は社会科の目標 ■は情報モラルの目標）
◆「メディアリテラシー」を身につける。
社会的なルールやマナーを尊重して情報発信できる。
■情報入手の適正な手続きや、情報収集、情報の信頼性を見抜く能力を養う。

以上の単元目標は、達成できたと考えます。生徒たちを意図的に偏った立場で調べさせることにより、「情報源の信用性」・「情報の正確性」・「偏った立場の情報の不十分さ」等に気をつけることを生徒たちが考えることができました。また、生徒たちは授業を通して、「情報の収集者」から「情報の発信者」となったときに求められる「発信する情報の信頼性」について、発信者が情報について責任を持つことが大切であることを理解していました。

単元の最初の授業で「ＴＰＰ」について、生徒たちに自分の立場（『賛成』か『反対』か）を考えさせてアンケートをとりました。授業においては、生徒たちを無作為に「賛成」「反対」に分け、どちらかの視点に立たせ、調べ学習を行いました。最後に単元の最初の授業と同じアンケートをとりなおしました。アンケート結果によると、調べ学習を通して、【意見が変わらなかった生徒は約６８％】・【意見が変わった生徒が約３２％】でした。このことから、調べ学習を行うときに、中立ではなく、偏った立場やどちらか片方の視点で調べ学習を行うと、生徒たちはどちらかの意見に流されてしまう傾向があり、情報収集の際には、情報収集先が偏らないようにする等の注意が必要であることを再確認できました。

「ＩＣＴを各班で使って班活動で言語活動を行う」は、授業者の準備がたいへんであることや、授業時間中の時間配分が難しいこと等が考えられます。しかし、生徒たちは、「ＩＣＴ機器」が各班にあることで、自主的に授業に参加し、「班活動」を行うことで他者の意見を吸収して自分の考えを再構築させようとしていました。課題はありますが、設備や時間配分を考慮して、「ＩＣＴの活用」「言語活動の充実」を授業計画の中に取り入れていく必要があると思います。

単元目標
■著作権等の知的財産権を尊重することができる。

一方で、上記の単元目標は達成不十分でした。授業では、「メディアリテラシー」と「著作権」の結びつかせ方がうまくいかず、時間的な余裕もありませんでした。授業の展開も早く、生徒の深い理解には至りませんでした。

また、「著作権」に関しては、様々なケースが考えられ、判断に迷うケースも多く、生徒への提案の仕方が不十分であったと考えます。

教師側も著作権を十分に考慮した上で、日々の授業を行っているかというと、疑問符がついてしまいます。生徒に「情報モラル」を指導していく上で、我々教師側の情報モラルの向上も必要ではないでしょうか。私自身も、研究授業後の授業においては、生徒たちに提示する資料に関して、著作権については細心の注意を払うようになりました。そんな中で先日、

地域の小学生が「二宮尊徳」についての発表する場があり、私が講師として招かれ、「二宮尊徳」について話す必要がありました。資料を作成する上で、「Ｗｅｂページをプロジェクターで投影して良いのか」の問題に直面しました。「授業ではないこと」・「中学生ではなく小学生・大人が対象であること」・「営利目的ではないこと」等いろいろ考えた結果、最終的には「Ｗｅｂサイトの著作権者に確認」をすることにしました。Ｗｅｂサイトの著作権者から資料活用に関して、快諾をいただき無事に発表会は成功しました。「著作権者に確認する」行動が取れたのは、研究授業を行い、情報モラルについて考えたからだと思います。今後とも、情報モラルを大切にしながら授業を展開していこうと思います。

（２）「社会科授業で学ぶ情報モラル」

本授業では、５年社会科の単元「くらしをささえる情報」の授業を通して、「情報モラル教育」の指導について研究しました。

①単元名　　【くらしを支える情報】

②単元目標

○放送、新聞等の情報産業が様々な情報を提供し、自分たちの多くがそれを多方面で利用していることについて、調査したり資料を活用したりして調べ、情報化の進展が自分たちの生活や産業の発展に大きな影響を及ぼしていることを考えることができるようにする。

○ＮＨＫ見学、学校ニュース番組の制作、放送局のディレクターのゲストティーチャー等の実体験を通して、情報を適切に伝える方法について考える。

○情報化した社会において、情報を有効に活用するために大切なことについて考えるとともに、様々な情報に対して適切に判断し、望ましい行動をとろうとする能力や態度を身につけるようにする。

③教材観

本単元では、情報ネットワークが公共サービスに活用されている例として、緊急地震速報を導入として取り上げました。昨年３月の大震災の際に子どもたちは実際に目にしており記憶に残っている身近なものとして感じることができるだろうと考えたからです。情報化社会の進展によって新しい機種の携帯電話やパソコン、新たな機器類が次々と開発され、とかく「道具」単体としての側面や、個々の生活についての利便性に目が向きやすくなっています。学習では、単に「情報」というだけでなく、「情報ネットワーク」について注目したいと考えました。情報ネットワークの双方向性が、社会全体にどのような効果をもたらすのかについて深めていきたいと思いました。「情報」という概念は、言葉だけでは捉えどころがなく、ややもすると抽象的な学習になりがちです。子どもたちの日常生活の中から、できるだけ具体的な場面を取りだし、情報をイメージできるものにしながら、それが持つ意味について考えていけるようにしていくことが大切だと考えます。

またこの単元が、小学校唯一の情報産業について学ぶ単元であり、情報メディアの仕組みを理解し、発信側に立ったニュース作りで具体的に公平・公正について考えることができるので情報モラルの授業を行うのに最も適した教材であると考えました。

④指導にあたって

本授業は、児童が山田第三小学校を紹介するニュース番組を作るにあたって、発信者及び受信者が気を付ける点を視覚的に見て、考え、確認することを大切にしていきたいと考えました。この授業を通して、情報モラルの大切さを認識させ、発信者としてこれから作るニュース番組制作にいかすとともに、普段の生活においても正確な情報を発信し、受信者の立場としては情報の正確さを常に確かめるということを行動できるように指導していきたいと思っています。そのために、以下の３つの活動を考えました。① 班でニュースを作る ② 専門家(ＮＨＫディレクター)に制作したニュースを見てもらう場をつくる ③ 児童へのアンケートをもとにビデオを見せる、です。これらの活動を通して、受信・発信側の公平・公正について気づかせていきたいと考えました。

(ア)５年生児童のインタビューの内容について

１２月下旬に、５年１組・３組の２クラスで国語の授業の内容とからめて、四季の中で自分の好きな季節を一つ選び、その理由を事前にワークシートに書かせました。その結果、全体としては春１１名、夏２６名、秋１１名、冬１９名となり圧倒的に夏が人気であることがわかりました。一方、少数派は同じ人数で春と秋でしたが、自分が担任しているクラスでは秋が最も少数派となりました。そこで、好きな理由を聞いたビデオインタビューを編集し、あえて秋の意見のみを強調するような内容のビデオを作成しました。

(イ)ＮＨＫディレクターのインタビュービデオについて

この授業をつくるにあたって、ＮＨＫのディレクターに依頼し、本人と複数回相談、打合せを行いました。その中で放送局の職員として現在の子どもたちにつけておいて欲しい力、またニュース番組をつくるにあたっての進め方のヒントをいただきました。そこで、今回流すビデオには以下のような内容を入れることにしました。

・自己紹介
・視聴者である子どもたちが情報と接する時に身につけて欲しい力
・子どもたちがニュース番組を作る上でのワンポイントアドバイス
・２月下旬に実際に作品を見に行くという予告

⑤指導計画（全１４時間）

時間	学習内容	評価の観点
1	日常でどんな情報をどのような手段で入手しているかを考える。	・ 自分たちがどんな情報をどのような形で入手しているかを積極的に考えている。（関心・意欲・態度）
2	緊急地震速報について関心を持ち、その仕組みについて調べ、工夫をまとめる。	・ 緊急地震速報が伝えられてくる図から情報を素早く確実に周知させるための仕組みを読み取っている。（技能） ・ 放送や新聞、インターネット等を活用することにより情報を早く正確に手に入れることができることを理解している。（知識・理解）

3	ニュース番組がどのようにつくられ、伝えられているのかに関心を持ち、ニュースが伝えられるまでをまとめる。 新聞の情報と比較し、送り手の工夫や努力を理解する。	・ ニュースが伝えられるまでをまとめることができる。（技能） ・ 情報は、人と人との関わりを通して作られ、伝えられていることに気付き、ノート等に適切に表現できる。（思考・判断・表現）
4	わたしたちは情報をどのようにして手に入れ、生活に生かしているかを考える。	・ 人々は様々な情報を日常生活や産業活動の中で活用し、役立てていることに気付きまとめることができる。（思考・判断・表現）
5	ビデオニュースを見ることから、数多くある情報に対してどのように向き合っていけばいいかを考え、理解する。（本時）	◎ 情報を発信する側､受信する側の気をつけるべき点を考える。（思考・判断・表現）
6	山三ニュースを作るにあたってどのようなテーマにするかグループごとに考える。	・ 山田第三小学校のどのようなことを伝えていきたいかを班員全員で考えながら、テーマを決定する。（思考・判断・表現）
7	使用できる写真の枚数、制限時間等を理解し、その中で効果的に自分たちの情報を伝えるにはどうするか？取材内容や取材方法を考える。①	・ 自分たちが伝えたい山田第三小学校の情報をいかにしたら効果的に伝えられるかという表現方法を考えられる。（思考・判断・表現）
8	使用できる写真の枚数、制限時間等を理解し、その中で効果的に自分たちの情報を伝えるにはどうするか？取材内容や取材方法を考える。②	・ 自分たちが伝えたい山田第三小学校の情報をいかにしたら効果的に伝えられるかという表現方法を考えられる。（思考・判断・表現）
9	放送原稿や効果的な写真の提示の仕方等を考え、仕上げていく。	・ 相手にうまく伝わるようなニュース番組になっている。（技能）
10	ＮＨＫの社会見学に行き、自分たちのニュース番組作りにいかす。	・ 放送局がどのようにして番組を作っていくのかを理解する。（知識・理解）
11	できあがったニュース番組のリハーサルを行う。	・ 自分たちが伝えたい情報が、発表内容の中で相手にしっかり伝えることができているかを確認する。（技能）
12	発表会１　保護者の前で行う	・ ニュース番組の中で自分たちが伝えたかった山田第三小学校の情報が見ている人に伝わっている。（技能）
13	発表会２　放送局ディレクターの前で行い、講評をもらう。	・ ニュース番組の中で自分たちが伝えたかった山田第三小学校の情報が見ている人に伝わっている。（技能）
14	情報化社会で生きていくためには、どんなことに気をつけ、どのように情報を活用していったらよいか考える。	・ これまでの情報を生かし、自分の生活を振り返り、自分の言葉でまとめる。（思考・判断・表現）

⑥本時の目標（◆は社会科の目標　■は情報モラル教育の目標）

◆ニュース番組作りというこれからの学習活動について興味・関心を持つことができる。

■情報を受け取る側は、一つの情報をうのみにせず、常に他の情報を自分で調べ確かめることの大切さを理解する。

■公平・公正を意識して、ビデオの編集の工夫を考えることができる。

⑦評価規準

◆インタービュービデオを見て積極的にその問題点を見つけようとしている。(関心・意欲・態度)

◆ゲストティーチャーのビデオを見て、これからの学習活動に関心や意欲を持っている。(関心・意欲・態度)

◆ビデオの感想を自分の言葉でまとめ、友だちに伝えようとしている。(関心・意欲・態度)

■情報の発信者・受信者双方の情報モラルについて理解する。（知識・理解）

⑧本時の展開

	学習活動	教師の支援と評価	教具
導入	・インタビューで答えた自分の好きな季節が何だったのかを思い出す。 ・５年インタビューニュースを見る。	・２クラス分のインタビュービデオなので全員が登場していないことを予告する。 ・ビデオの中身についてしっかり見て感想を書くように伝えておく。 ・好きな季節の人数を板書しておく。	予め編集したインタビューのＤＶＤ
展開	・ワークシートにニュースを見た感想とその理由について書かせる。 ・ニュースを見た感想を隣の人に伝えた後、全体で発表する。 ・ビデオを見る前の気持ちについて尋ねる。 ・児童から出てきた意見から情報の受信者の注意点について学習する。 ・班でどのように編集すれば５年生のインタビュービデオとしてふさわしいものになったのかを考えさせ、出てきた意見を班長が短冊にまとめ発表する。 ・児童から出てきた意見をまとめ、情報の発信者の注意点について学習する。	・先生がつくったビデオの中身について黒板の板書も参考にしながら感想を正直に書くように声かけをする。（肯定的な評価、否定的な評価どちらでもよい。） ・全員が必ず隣の人に自分の感想を伝えるようにする。全体で発表する人は数名を指名する。 ・授業の中で流すビデオの内容について疑っている人がいなかったことを確認する。 ◎ メディアリテラシーについて学習をする。班長が代表として出た意見を他の班の児童に伝えられるようする。（なぜそう思ったのかもしっかり述べる。） ◎ 情報が不公平な操作で流されたことを押さえ、そういうことはしてはならないことを伝える。	ワークシート 短冊・マジック
まとめ	・授業のまとめに実際にテレビ局の番組を作っている人のインタビューを聞く。 ・授業の振り返り感想を書く。	・今後の学習にむけてのめあてをはっきりさせる。	インタビューを収録したＤＶＤ・振り返りシート

⑨成果と課題について

今回の授業で一番大きな成果は、自分たちが登場する映像を不公平な意図をもとに編集されたビデオを見ることにより、情報を発信する時の公平・公正の大切さが理解できたことです。また専門家に授業を見に来てもらい、自分達の情報発信の仕方を見てもらうという取組は、子どもたちの意欲向上に非常に役立ちました。

研究授業の翌日より、以下の６つの手順で、クラスを８つのグループに分け、山田第三小学校についてのニュースを作る活動に入りました。

(ア)発表する内容をグループで考える。取材内容を考える。
(イ)取材先に取材をし、ニュースで使う写真をとる。
(ウ)集めた取材内容を検討し、ニュースの形に編集をする。
(エ)リハーサルを行い､他の１グループに作品を見てもらい､正直な感想を言ってもらう。
(オ)他のグループの指摘を受け、もう一度ニュースの内容を再検討する。
(カ)ニュースを発表する。

どの児童も積極的に取材・編集作業に取り組み、８つのまったく違うテーマをうまくニュースの形にしていくことができました。特に(エ)のリハーサルの際は、ただ単に発表するだけでなく、視聴者側となり発信者のグループに感想を伝える活動を通して、どのようにすれば自分の伝えたい情報がうまく伝わるのかを考えさせる良い機会となりました。またその指摘をうけて(オ)の再検討活動が非常に良いものとなり、実際に本番で行ったニュース内容がどれも視聴者側のことを考えた内容へと修正されました。ただ単にニュース番組を作る時のグループ内の交流に留まらず、見る側、伝える側双方の立場にたった意見の交流が、作品の質を高めることにつながったのは大きな成果であったと考えます。

また研究授業であまりふれることができなかった「受信者側が情報をうのみにせず、常に他の情報を自分で調べ確かめる」ことについては、単元の中で改めて取り上げる時間を設けたことで、児童はニュース番組作りを通しても自ら学習していました。この単元の最終のテストでは、記述式問題で「情報をうのみにせず、自分で調べ判断する」とほとんどの児童が答えており、自由記述の問題でもその傾向があらわれていました。

課題については、受信側が気をつける「受信者側が情報をうのみにせず、常に他の情報を自分で調べ確かめる」ことについては、本時で取り上げる時間がほとんどなく、以後の授業でもう一度学習をする必要がありました。さらに、公平・公正を強調するあまりに、実際の専門家が流す映像等は、作者の意図により編集加工が加えられている状況に対してどう接していったらいいかについても、後の授業で押さえることになりました。

実際に指導してみて、情報モラルの授業については、どの部分までを押さえたらいいかということについて、非常に難しいという感想を持ちました。今回は情報発信側、受信側の気をつける点というところに絞って授業を行いましたが、その２つでさえ非常に取り上げ方が難しいと感じました。更に著作権等、まだまだ教える内容はたくさんあります。

しかし、ＩＣＴの技術を使って映像を見せ、情報について考えさせ、その後それについての体験的な活動を行うという授業形態については、児童の反応が非常に良く、積極的な学習活動につながっていったように思います。

情報化社会の中、子ども達にとって非常に大事になっていく情報モラルの学習を、どの学習活動の中でどのようにして取り上げていけば良いのか、さらなる研究を進めていきたいと思います。

５．おわりに

今年度は情報モラルの指導を研究の第一の目的として取り組んできました。研究員の協力で小・中学校それぞれで授業を提案・検討し実施することができました。

情報モラルの授業を行うにあたって、研究グループでは教科指導の中で情報モラルについて扱う指導展開を考えていきました。小学校・中学校どちらの実践も、社会科の授業の中で必要な場面に応じて、子どもに情報モラルを意識させる授業展開を考えました。学習指導要領が改訂され、授業時数に対して教科の内容が増えている今だからこそ、情報モラルを教科の授業の中に位置づけて指導していく、ことについては提案性のある授業実践になったと考えます。

また、中学校の授業では「ＴＰＰ」という時事問題を取り上げたこと、また調べたことをもとにプレゼンテーションする活動を設定したことで、子どもたちが学習活動に意欲的に参加することができました。立場に分かれて調べ活動をすることを通して、情報によって意見が左右されてしまうことに気づくことができました。これは、情報化社会における自分自身の適切な判断力や望ましい態度を育むための「情報モラル教育」にとどまらず、メディアの特性を知り、情報をうのみにせず分析的・批判的に読み解いていく力を育む「メディアリテラシー」に踏み込んだ学習内容でした。小学校の授業でも、意図的に編集されたビデオを用意したこと、ＮＨＫのディレクターという専門家の活用、ニュース番組の制作等のしかけによって、子どもたちに「メディアリテラシー」を育てることができました。

しかし、情報モラル教育としての授業の枠を超えた学習活動を設定したことで、本時で押さえたかった情報モラルについての理解があいまいになってしまったり、情報モラルの視点がぼやけてしまったりした、という課題も残りました。スーパーバイザーである和歌山大学豊田 充崇 准教授の指導助言にもありましたが、「情報モラル」や「メディアリテラシー」等用語の整理をしていくとともに、実践していく上では、情報モラルとしての目標とそのための学習活動についての整合性の吟味が一層必要であると考えます。

今年度新たな研究ができなかったＷｅｂ会議システムの活用については、どのような活用の方法があるか、また学校のニーズにどのように対応できるか等を考慮して、次年度以降の検討課題とすることを考えています。